

けやきゼミナール teacher's 版 No.11



○ LGBT、性的指向と性自認の多様性を肯定的に！

神奈川県公立高校の入学願書から性別の記入欄が今年度からなくなりました。その理由は「LGBTに配慮」ということです。

異性愛であるか同性愛であるか、あるいは誰に対しても恋愛や性愛の感情を抱かないといったことや、自らの性別をどのように捉えているかといった性的指向と性自認の多様性については、学校現場でも関心もたれるようになってきたと思います。ご存じだと思いますが、LGBTとは女性同性愛のレズビアン、男性同性愛のゲイ、両性愛の男女であるバイセクシャル、生まれもった身体の性別に違和感をもち身体の性別とは異なる性別で生きることを望むトランスジェンダーの略のことです。



LGBTをはじめとするセクシャルマイノリティは人口の5～8%程度の存在率であるといわれています。2016年に実施された当事者調査によると、周囲の者と性的指向と性自認が違う当事者は、小学校・中学校・高校の学齢期に「ホモ、おかま、おとこおんな」と言った言葉の暴力による被害を約60%、服を脱がされる被害を約20%が受けているとのこと。また、LGBTと不登校との関連も調査により指摘されています。

橋本高校には現在881名の生徒が在籍しています。その5%は44名です。LGBTが小学校・中学校・高校時代に直面するいじめ被害、不登校、自傷行為など深刻なライフイベントは他の集団に比べて明らかに高倍率だそうです。私は、いじめの防止や不登校など学校が直面する課題において、性的指向と性自認の観点からも見直してみることも必要だと感じています。

LGBTの生徒が自分の思いを正しく伝えようと思えばカミングアウトが伴います。生徒のカミングアウトを私たち教員が受けとめるために、LGBTを正しく理解しなければと感じています。

まずは映画でLGBTを少しだけ理解するというのはいかがでしょうか？

- 「リリーのすべて」

性転換の実例がほとんど無かった20世紀初頭のデンマークで、女性として生きたいという気持ちに目覚め、自らの想いを貫いたリリーと、そんな夫を愛し続けた妻。史実からは脚色されている部分はあるものの、事実をもとにした作品です。

- 「ハンズ・オブ・ラヴ 手のひらの勇気」

実在する2人の女性の愛と自由をかけた闘いにより、2006年ニュージャージー州にて同性パートナーへの財産分与が承認され、2015年6月26日、米国最高裁が「同性婚を含むすべてのアメリカ人の婚姻を保証する」という歴史的判断を示しました。

令和2年度キーワード…「組織化」「共有・協働」「探究」「ユニバーサルデザイン」「チャレンジ」
 CHALLENGE…各自の目標を見つけ、それに向かって自らの能力や適性を伸ばし、挑戦し続ける
 INDEPENDENCE…民主社会の担い手として、優れた判断力と強い責任感を備えた人物を育てる
 GLOBAL…国際社会の一員としての自覚を持ち、自国の文化や習慣を大切にすると同時に、他国の文化や習慣を理解できる人間に育てる